



通信 Joyama News

福岡教育大学広報誌
University of Teacher Education Fukuoka Campus Magazine

vol. 35
2016 Spring

特集1

教員採用試験

特集2

福岡教育大学COC事業

特集3

大学改革



国立大学法人
福岡教育大学

特集 1

教員採用試験

— 教師になるために —

今号の特集1では、平成27年度の教員採用試験合格状況と、学生の採用試験合格に向けたキャリア支援センターの様々な取り組みについて紹介します。

vol.

35

CONTENTS

- 02 特集1
教員採用試験
- 06 特集2
福岡教育大学COC事業
- 08 特集3
大学改革
- 10 福教大NEWS
- 18 授業紹介
国語学研究(荻野千砂子准教授)
代数学(岡崎亮太講師)
- 20 研究室紹介
技術教育講座 梅野 貴俊研究室
- 21 サークル紹介
ソフトテニス部
ギター・マンドリンクラブ
- 22 社会連携 連載第13回
- 24 福教大卒OB・OG
春日市立春日北小学校教諭
南 里奈さん
福岡県立古賀特別支援学校教諭
園畠 愉佳さん
- 26 TOPICS
大学のロゴマークの選定について
表紙モデルの福教大生☆
- 27 キャンパスからの便り



教員採用試験の概要

教員採用試験は、都道府県教育委員会と指定都市教育委員会によって個別に行われます。出願の時期、試験の日程、試験の内容はそれぞれの自治体によって異なります。試験内容は筆記試験(教職教養・一般教養・専門教科)、論文、実技、集団討論、面接(個人・集団)、適性検査などが第1次、第2次試験と2回に分けて実施されるのが通例です。大分県など一部の教育委員会では第3次試験まで実施されています。

また、特定の資格等を有する者、スポーツ・芸術での技能や実績を有する者に対する加点や一部試験の免除を実施したり、英会話や電子黒板を使用した模擬授業等を試験に導入したりしている自治体もあります。自治体や校種によって、試験科目や内容に差があるため、教員採用試験に臨む場合は、早い段階で十分に情報を調べ、試験の全体像を知ることが重要となります。

教員採用試験を受験する際には、各自治体のホームページに各自治体独自の学校教育に関する取組も掲載されていますので、確認するようにしてください。

在学生、卒業生のみなさんは、過去の募集要項や願書、過去問等がキャリア支援センターで閲覧できますので、気軽に利用してください。

教員採用試験は、概ね右記の日程で実施されます。

教員採用試験日程	3月～5月	募集要項・願書配布
	4月～6月中旬	受験申込
	7月	教員採用試験第1次試験
	8月～9月上旬	教員採用試験第2・3次試験
	9月上旬～10月下旬	最終合格発表

教員採用試験は、試験日が重ならない限り複数の自治体を併願することができ、関東地区、関西地区など併願が可能な自治体もあります。なお、第1次試験を福岡会場で実施する自治体もあるので、キャリア支援センターで確認してください。

例年、主な自治体の募集要項や願書は、キャリア支援センターで取り寄せ、配布しています。受験申込は郵送だけではなく、インターネットで行っている自治体もあります。希望する自治体の情報を必ず調べ、証明写真等必要なものを準備するようにしてください。

本学の教員採用試験合格状況

平成27年度実施の教員採用試験第1次試験は7月に、最終試験は8月から9月上旬にかけて実施されました。本学の福岡県内における教員採用試験の結果は以下のとおりです。

本学の最終合格者数は、昨年度は136名(福岡県86名、福岡市27名、北九州市23名)、今年度は153名(福岡県108名、福岡市18名、北九州市27名)でした。昨年度と比較して、今年度の合格者数は、第1次試験で10名、更に最終合格者数は17名増えました。

福岡県内における教員採用試験合格状況(平成26～27年度実施)

(平成28年2月1日現在)

		募集数		受験者数		1次合格者数		最終合格者数			
		26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	合格率	27年度	合格率
		福岡県	小学校	380	390	97	112	63	76	51	52.6%
	中学校	200	210	85	68	40	42	23	27.1%	24	35.3%
	高等学校	177	173	54	74	12	18	6	11.1%	16	21.6%
	特別支援学校	45	55	18	18	10	12	6	33.3%	9	50.0%
	小計	802	828	254	272	125	148	86	33.9%	108	39.7%
福岡市	小学校	185	190	61	38	45	27	18	29.5%	9	23.7%
	中学校	80	80	29	25	16	15	6	20.7%	4	16.0%
	高等学校	9	7	1	0	0	-	0	0.0%	-	-
	特別支援学校	40	30	6	15	4	11	3	50.0%	5	33.3%
	小計	314	307	97	78	65	53	27	27.8%	18	23.1%
北九州市	小学校	125	105	21	26	20	20	15	71.4%	17	65.4%
	中学校	55	45	18	11	6	5	4	22.2%	3	27.3%
	特別支援学校	30	25	10	8	8	8	4	40.0%	7	87.5%
	小計	210	175	49	45	34	33	23	46.9%	27	60.0%
	合計	1,326	1,310	400	395	224	234	136	34.0%	153	38.7%

公立学校教員採用試験合格状況(平成26～27年度実施)

(平成28年2月1日現在)

実施年度	小学校				中学校				高等学校				特別支援学校				合計				合格者実数
	出願数	1次合格者数	最終合格者数	合格率	出願数	1次合格者数	最終合格者数	合格率	出願数	1次合格者数	最終合格者数	合格率	出願数	1次合格者数	最終合格者数	合格率	出願数	1次合格者数	最終合格者数	合格率	
27	299	209	132	44.1%	152	90	40	26.3%	117	36	22	18.8%	69	47	30	43.5%	637	382	224	35.2%	205
26	341	244	135	39.6%	203	101	56	27.6%	111	29	12	10.8%	58	37	19	32.8%	713	411	222	31.1%	197

教員採用試験のための特別講座

2年生から4年生の教員採用試験が終わるまで、通常の授業とは別に、週2回無料で「教員採用試験のための特別講座」を学内で開講しています。

2・3年生特別講座

教員採用試験に関するデータや各自治体の試験内容などの情報を収集し、第1次試験の筆記試験内容(教職教養・専門教科)をマスターする講座です。

また、学年末には、受験地別学習会を開催し、受験地別グループ(10名程度)をつくり、仲間とともに教員採用試験合格を目指します。

4年生特別講座

教員採用試験の直前対策編として、集団討論、集団・個人面接、模擬授業の人物対策試験のための講座です。それぞれの受験地に応じた試験対策をし、実践的な学びができるような内容となっています。

また、英語・音楽・体育実技、電子黒板を使用した模擬授業などの試験に対応するための講座も開講しています。

その他、元教員の就職支援アドバイザーによる個別相談や学内で模擬試験、教育委員会による説明会等も開催しています。



教員採用試験のための特別講座の様子

教職イベント

「教職イベント」とは、教員を目指すモチベーションや教員採用試験に臨む姿勢の醸成を図り、教職キャリアを高めるために実施しているものです。

本年度は全7回実施しました。

第3回では、本学卒業の先輩教師4名を招き、教師の主な仕事、教師生活での喜びや苦勞等について語っていただきました。

第6回では、本年度の教員採用試験に合格した学生6名が自らの体験をもとに教員採用試験の取組・対策等についてディスカッションしました。

参加した学生らは熱心にメモを取り、先輩の生の声に刺激を受けたようでした。



第3回 先輩教師を囲んで「教師の魅力について」の様子



第6回 教員採用試験合格者によるパネルディスカッションの様子

教員採用試験合格者からの メッセージ



福岡市教員採用試験 小学校合格

初等教育教員養成課程
国語選修4年

とがめ はつみ
戸亀 初美さん



私が教員採用試験に合格したのは、周りの人と支え合いながら勉強をしたおかげだと強く感じています。広い筆記試験の範囲と全く分からない模擬授業や面接に途方に暮れていた私を救ってくれたのは、キャリア支援センター主催の同じ受験地同士のグループ作りで出会った友達と先生でした。

過去問を解いて自分の受験地の問題傾向を分析したり、キャリア支援センター主催の面接・模擬授業練習に参加したりして、効率よくポイントを押さえた勉強をしたことが本当に役に立ったと思います。

教員採用試験を通して、周りの人と一緒に大きな壁を乗り越えることができ、大きな自信につながりました。皆さんも周りの人との関わりを大切にしながら、合格のために頑張ってください。

北九州市教員採用試験 小学校合格

横浜市教員採用試験 小学校合格

初等教育教員養成課程
社会科選修4年

の の がみ はるか
野々上 遼さん



私が、併願受験をして感じたメリットを紹介したいと思います。一番のメリットは、本番でしか経験できない独特の緊張感の中で、試験を受ける機会を多く得ることができることです。私は、北九州市を第一志望として受験しました。北九州市の試験が、横浜市の試験よりも後の日程であったので、北九州市の本番では、横浜市の試験の経験を活かし、試験を楽しむことができました。

併願して試験を受けることは、負担が増えると感じる人は多いと思います。しかし、他の都道府県で教員を目指す人々と出会い、新たな刺激を受け学習できる場になるとと思います。教員を目指す自分の成長のためにも、併願受験は実りが多いと思います。

福岡県教員採用試験 中学校合格

中等教育教員養成課程
家庭専攻4年

そえだ かすみ
添田 佳純さん



教員採用試験では、キャリア支援センター主催の模擬授業や面接練習、グループ集団討論練習は大変役に立ちました。特に集団討論のグループは2次対策も一緒に行い、切磋琢磨し合うことで、勉強に対する気持ちを維持できました。

専門教科の勉強においては、参考書を何回も解いたり、友人と問題を口頭で出し合ったり、自分の弱点を見つけながら知識を増やしていきました。

試験勉強のことを振り返るとたくさんの方の支えがあったから頑張ることができたのだと思います。様々な試験があるので対策が大変ですが、1~3年の皆さんには、大学生の今しかできない経験をたくさんし、その経験から得たことを自分の武器にして、最後まで諦めることなく頑張ってください。

福岡県教員採用試験 特別支援学校合格

特別支援教育教員養成課程
4年

たかはし しほ
高橋 志穂さん



私は筆記試験に向けて、模試や問題集で解いた問題の復習を徹底的に行いました。試験に向けた勉強を進めていく中で、多くの問題を解くことになります。しかし、1度解いた問題でも、再度、解きなおしてみると意外と解けないものです。「1度解いた問題は絶対に間違えない」という気持ちを持つことが大切だと思います。復習の具体的な方法としては、自分が決めた1つの問題集を何度も繰り返し解いたり、やり直しノートを作って間違えた問題をすぐに見直せるようにしたりしました。

試験が近づくにつれ、不安になることもあると思いますが、支えてくれる家族、友達、キャリア支援センターの先生方がいることを忘れずに、頑張ってください。

福岡教育大学 COC事業

はじめに

文部科学省から公表された大学改革実行プランの中では、「地域再生の核となる大学づくりCOC (Center of Community) 構想の推進」が示されており、全ての大学がCOC機能をもつとされています。本学では、平成26年9月から「広域連携による教育活性化プロジェクト」という名称で、本学独自のCOC事業に取り組んでいます。

本事業は、教育の切り口で地域再生の核となる大学づくりを目指して、本学が持つ資源（シーズ）と教育委員会及び小・中学校等の現場の需要（ニーズ）とのマッチングに基づき、主な教育フィールドである宗像地区との連携、及び、福岡県全60市町村を視野に入れた広域の戦略的連携事業を展開するものです。本年度は、これまでの広域連携事業に加えて、本学の地域を志向する教育研究の活性化を含めたCOC事業を展開しています。

平成27年度の福岡教育大学COC事業の内容

(1) 戦略的広域連携事業

学校教育現場や地域および行政のニーズを迅速に収集して洞察した上で、本学のシーズを活用して具体化・専門化・実用化（教育実践可能化）した事業を創出するものです。また、新たな組織的連携基盤の確立を目的とした事業展開も目指しています。本年度は、講師等研修を始め、9件の事業を行っています。この中から3つの事業を紹介します。

講師等研修

福岡県教育委員会との共催で、主に小中学校の講師向けに、その授業力向上を目的とした講座を行っています。今年度は筑豊及び京築教育事務所で実施し、次年度はさらに実施場所を拡大する予定です（本通信第33号参照）。



赤間小学校での外国語活動

外国語活動に関わる連携事業

宗像市教育委員会との連携による共同研究を起点として、福岡県教育委員会、那珂川町教育委員会、糸島市教育委員会との連携事業に対象を広げています。福岡県教育委員会の「英語教育強化地域拠点事業」における那珂川町の取り組みでは、小・中・高を通した英語のCan-doリストの作成等に関わっています。また、糸島市教育委員会とは教員研修やカリキュラム開発に関する連携を行っています。

CS支援事業

本学社会連携推進室の中には、複数の学校運営協議会の委員を務める教員から構成される「CS支援チーム」があります。このチームにより、様々な地域におけるCS（コミュニティ・スクール）の導入や推進に関する支援を行っています。本年度は、福津市等におけるCS推進の個別事業の支援を始め、広くCSに関する研究会・報告会等での講演や指導助言を行っています。



福津市CSフォーラムにおける指導助言

(2) 学校や教育委員会・地域のニーズに応える社会貢献事業

本年度は様々なニーズに応える社会貢献事業として、27件の事業を行っています。これらの事業をきっかけとして、今後の事業内容の発展や連携先の拡大が見込まれています。

(3) 学内公募による地域志向プロジェクト

地域志向の学内シーズを発掘・開発する事業として、現在、教育・研究・ボランティアの3分野から計9つのプロジェクトを採択して進めています。これらのプロジェクトは、本年度末の事業期間終了後、本学HP上で成果報告書を公開する予定です。

(4) 学生ボランティア認定システム

宗像市・福津市の教育委員会・学校関係者との合同会議を経て「学生ボランティア認定システム」を立ち上げ、平成27年8月から1年生の希望者を対象に近隣の市・町で試行的に実施しています。これは、認定を希望する学生に対して、活動時間や活動場所と自己評価・他者評価の結果を基に、3段階の認定証が授与される仕組みです。

平成28年度からは福岡県全域に対象地域を広げ、新入生から本格実施することとしています。なお、平成28年度からは本学で新たに立ち上がる「学生ボランティア活動推進本部」の中で進めることにしています。これによって、学校教育現場や地域への社会貢献を一層進めるとともに教員養成機能の高度化を目指します。



世界一行きたい科学広場 in 宗像への出展



学生ボランティア

まとめと今後の展望

本事業では、様々な形で地域と連携しながら、現代的教育課題・地域課題のニーズに応える事業の開発と展開を行ってきました。本事業を通して、これまで本学との組織的連携が十分ではなかった地域との連携基盤を新たに確立することもできました。今後も、これらの事業によって得られた様々な成果を集積して本学の教育・研究に還元するとともに、「教育版地方創生事業」の趣旨に則って地域の活性化にも寄与しながら、広域拠点大学である本学の役割を果たしてまいります。

事業内容の詳細については本学ホームページをご覧ください。





大学改革

本学の教職大学院のさらなる発展に向けて「教員養成の質向上に関する諮問会議」から提言がされました。

本学教職大学院は、

- 平成27年3月修了者(現職教員学生を除く)の9名は全員正規採用。平成28年3月修了予定者(現職教員学生を除く)も7名中6名が正規採用予定。
- 平成27年度在籍(現職教員学生を除く)の1年次学生12名中7名(小学校教員4名、中学校教員3名)、2年次学生7名中6名(小学校教員3名、中学校教員1名、高等学校教員2名)が教員採用選考試験に合格。このうちの1年次学生は各県・市教育委員会の採用候補者名簿登載期間1年延長措置により、平成29年4月から学校現場の教員として活躍する予定。

とのように大きな教育成果をあげており、さらに、平成28年度から入学定員の倍増(20名→40名)を行うとともに、大学院教育の質向上に努め、新たな飛躍を目指します。

本学では、平成26年度に教育委員会や学校関係者から成る「教員養成の質向上に関する諮問会議」を設け、地域や学校現場の意見等を大学の教員養成に積極的に反映させることとしており、平成26年度は教育学部の改組について審議、答申をいただきました。

本年度は、更なる教職大学院改革に向けて、平成27年7月29日付けで学長から諮問を受けた「本学教職大学院による教員の資質・能力の高度化に向けた取組方策について」について、検討を重ねてきました。

この度、これらの検討内容がまとまり、平成27年12月16日に吉田議長から学長へ答申が提出されました。

(1) 答申で述べられた本学教職大学院で新たな設置が望まれるコース

① 各教科等の指導力の高度化のための学修ができるコース

〈本コースで養成しようとする資質能力、人材〉

各教科等内の各領域全体をとおしての「理論と実践の往還」による高度かつ多様な指導力を身に付けた教員(初任者教員、現職教員)として、修了後は、教科指導を高度に実践できる力を身に付けた初任者教員、指導教諭等として活躍を期待する。

② 小学校、中学校、高等学校での特別支援教育のコーディネート力を促進させるスーパーバイザーとしての学修ができるコース

〈本コースで養成しようとする資質能力、人材〉

自らの学校での特別支援教育を推進し、児童生徒の状況を踏まえての適切な支援のために、学校内や関係機関・関係者との間を連絡・調整し、協同的に対応できるとともに、各地域内で中核となって各学校の特別支援教育を推進し、特別支援教育コーディネーターを助ける特別支援教育のスーパーバイザーとして活躍することを期待する。

③ 学校の円滑な経営・運営のための学修ができるコース

〈本コースで養成しようとする資質能力、人材〉

高度な学校運営、カリキュラム・マネジメント等に係る知識、実践力、提案力を身に付けた人材育成の場として、修了後は指導主事、教頭等としての活躍を期待する。

(2) 答申で述べられた教員志望者や現職教員が学び続けるための8つの環境づくりの取組

① 夜間や休日等での開講により勤務と学びの両立を支援

夜間や休日、長期休業期間中も学べる環境、また、科目等履修生等の形で一定科目又は科目群を系統的に集中的に学べる環境の整備。

② 柔軟な受講形態により「中核教員」の学びを支援

多様な受講形態を可能とする1年程度の修業年限のコースの設定、履修証明プログラムの開設。

③ 研修歴の「マイレージ」により効率的な学修を支援

教職大学院入学前の福岡県教育センター等での研修の成果を教職大学院での学修として積極的に評価。

④ サテライト教室開設により通学負担を軽減

平成27年度から整備される附属福岡小学校、久留米小学校、小倉中学校でのサテライト教室を活用し、各種授業での指導及び遠隔授業システムでの授業受講の可能化。

⑤ 講師としてのインターンシップにより理論と実践の往還機会を拡大

大学新卒学生の就学の場合、本学教職大学院での学修以外に、希望する学生が非常勤講師として理論と実践を往還できる環境づくり。

⑥ 他大学との「連合」により地域全体の高度専門職業人養成を拡大

教員養成の広域拠点として、また、福岡県内唯一の国立大学の教職大学院であることから、公私立大学の学部新卒学生も学びやすいよう、地域の公私立大学との組織的な教育研究の連携、カリキュラムの調整、教員や学生間の交流等の拡大。

⑦ 小学校免許取得機会の提供により新たな資質能力を育成

中学校や高等学校教員免許状を持ち、今後、小学校教育に関わることを希望する者が在学中に小学校教員免許状を取得できるプログラムを開設。

⑧ 学び続ける教員を継続的に支援

修了者の学校現場での悩み・課題に引き続き助言等を行ったり、実践・研究上の課題等を持ち寄り、学び、発表することができる研究会や学会のような場、機会を教職大学院を中心にして新設又は発展。

答申を受領後、寺尾学長から、「来年度から始まる第三期中期計画期間に向けて、今回取りまとめたいただいた答申の内容を踏まえ、本学教職大学院の学生定員の拡充や教育の充実につなげていけるよう準備を進め、九州地域の広域拠点にふさわしい教職大学院となるよう努めていきたい」旨の謝辞が述べられました。

この答申を踏まえ、教員養成における九州の広域拠点大学として、実践型教員養成機能への質的転換等、国民からの要請を真摯に受けとめ、一層の改革を実行してまいります。



答申文書を受け取る寺尾学長



会議の様子

福教大 NEWS 1 ▶▶ 新体制発足

国立大学法人福岡教育大学第15代学長に、櫻井孝俊氏が選ばれました。任期は平成28年4月1日から平成32年3月31日までです。

さくらい たかとし

櫻井 孝俊

プロフィール

福岡教育大学特別教科教員養成課程数学卒業、同大学教育専攻科数学修了、広島大学大学院理学研究科数学専攻博士課程前期修了。昭和54年福岡県立門司高等学校定時制教諭。昭和57年広島大学大学院理学研究科数学専攻博士課程後期中退。昭和57年 福岡教育大学助手。同大講師、助教授、教授を経て、平成16年に附属久留米小学校長に就任。附属学校部長、理事・副学長等を歴任し、平成28年4月に学長就任。



平成28年度は、国立大学法人福岡教育大学第3期中期目標・中期計画の初年度にあたります。この第3期において達成すべき大学のミッションは、義務教育諸学校に関する教員養成機能における広域の拠点の役割を目指すことを基本的な目標とし、実践型教員養成機能への質的転換を図り、我が国の学校教員の質の向上に貢献することにあります。この使命と責任を果たすために、本学の資源を教員養成機能に集中させる改革をさらに推し進める必要があります。学生組織、教育組織、入学試験及びカリキュラムの改革はまだその途についたにすぎません。本学への期待は、教員養成に対する量の確保とともに、教育実践力を確かに身に付けているという質の担保にあります。これらのことに応えるために、初等・中等・特別支援教員を養成する学部3課程の、課程としての教育を中核的に担う教員組織として「教職教育院」を立ち上げました。教職教育院では、学生の教員への志望動機を継続的に高め、志を醸成し、平成32年度には教員採用率90%以上を達成する覚悟です。大学院においても、まったく同様です。32年度まで福岡県全体の教員採用予定者数は、毎年千名を超えるという追い風を背に、教職員の力を結集してこの使命を果たしていきます。

理事・副学長
(企画・教育研究
附属学校担当
教育組織
カリキュラム担当)



池田 修

いけだ おさむ

義務教育諸学校の教員養成に関する九州の広域拠点大学として、学部・大学院の入学試験改革、教育課程の更なる改善・充実を図り、教師としての強い使命感と実践的指導力を身に付けた教員養成に取り組むとともに、教育研究活動の重要な学術情報基盤である学術情報センターの充実に努めます。

理事・副学長
(総務・財務担当)



嶋倉 剛

しまくら つよし

本学が今後とも、学校教育関係者から教員養成の拠点として信頼いただけるよう、教育研究基盤の整備充実に取り組めます。九州に今後生まれ育つ子供たち一人ひとりの確かな成長・自律に、より貢献するように。

理事・副学長
(国際交流
社会連携担当)



榑崎 洋二郎

ならさき ようじろう

本学版COC(Center of Community)事業を中核とし、県や市町村及び教育現場との連携協力の下に、地域の教育課題の解決や教員研修機能の高度化に努めます。また、学生の英語力を鍛え、多様な国際交流や国際貢献の機会を提供します。

副学長
(大学改革
学事総括
評価担当)



寺尾 慎一

てらお しんいち

豊かな知を創造し、力のある教員を育てるため、学長を支えて大学改革を推進します。

副学長
(学生指導
厚生担当)



平田 哲史

ひらた てつし

本学の使命は、質の高い教員の養成と、有為な教育者の育成です。それにつながる快適なキャンパスライフの実現を目指します。

副学長
(入試・就職担当)

大学院教育学研究科長
兼任



相部 保美

あいべ やすみ

教員となるための意欲や熱意、資質・能力を有する者の入学と教員になるという志の実現に資するよう入試や就職に取り組めます。

副学長・副理事等 紹介

副学長(研究倫理・外部資金獲得担当)・教育学部長兼任
飯田 慎司 いいた しんじ

本学の研究倫理を高めるとともに、科研費等の外部資金の獲得に尽力します。また、教育学部長として教育学部の発展に努めます。



副学長(教育研究高度化担当)
清水 紀宏 しみず のりひろ

学力向上や教員研修などに関する学内外共同研究プロジェクトを通して、九州地区の教育力の向上に貢献することを目指します。



副学長(博士課程設置・教職大学院担当)
宮内 健二 みやうち けんじ

多くの教育関係者から「最近、福教大は変わってきたねえ」と言われることが励みです。学校現場や子供を脳裏に浮かべながら教員の高度な実践力の育成に努めます。



附属学校部長
甲斐 純子 かい すみこ

7つの附属学校と大学との強固な連携を図り、各附属学校における先導的研究の推進と教育実習の充実に取り組みます。



副理事(地(知)の拠点整備担当)
小田 泰司 おだ やすじ

社会的要請に応える教員を養成するために、九州の広域拠点大学として各地の教育委員会や教育関係団体との連携を一層進めて参ります。



副理事(国際交流担当)
宮迫 靖静 みやさこ のぶよし

グローバル社会における教員養成大学として、小・中学校教員に求められている英語能力の向上に努めます。



副理事(キャリア担当)
生田 淳一 いくた じゅんいち

学生一人ひとりが、未来と向き合えるような、自分のよさを見つけられるようなキャリア支援に全力で取り組みます。



副理事(入試実施担当)
井上 豊久 いのうえ とよひさ

入試広報の充実と入試実施業務の確実実施のため誠実に努力したいと思います。



事務局長
松田 成史 まつだ しげふみ

第3期の目標の実現に向け、組織運営、教育研究、財務内容の改善等に事務局として全力で取り組みます。



副理事(法人経営担当)
伊藤 慶之 いとう けいし

教員養成の広域拠点大学としての社会からの期待に応えるため、法人運営面から寄与できるよう尽力いたします。



副理事(教育研究担当)
村山 嘉審 むらやま よしあき

英語習得院の運営、研究倫理教育の実施、地域との連携、また、いじめ根絶に向けた取組など、国際交流、研究協力、社会連携を総合的に推進して参ります。



副理事(学務担当)
人見 達也 ひとみ たつや

新体制のもと、新たに構築したカリキュラムの円滑な実施や、学校現場を活用した学生への実践的な指導力の育成に取り組みます。



福教大 NEWS 2 ▶ 「教育大へ行ってみよう!」を開催しました

福岡教育大学では、平成27年11月15日(日)に、大学開放事業「教育大へ行ってみよう!」を開催しました。

「科学」「ものづくり」や「音楽」など、様々なテーマをもとにした実験や実習を体験することで、科学をわかりやすく身近なものに感じてもらうとともに、「作り上げていくこと」の達成感を味わってもらうことを目的に平成11年度から実施しています。

JR九州やトヨタ自動車九州株式会社、そしてコスモ・バイオ株式会社公開講座応援団の協力・協賛のもと、科学実験・体験、ものづくり・音楽体験企画として19のコースを実施し、子どもとその家族合わせて約1,200名の参加がありました。

当日はおおむね天候にも恵まれ、各会場では、大学生の実演や説明を熱心に見聞きし、科学やものづくり等の楽しさに触れるたび、目を輝かせる子どもたちであふれていました。

参加した子どもたちから、「かがくについてたくさんまなべてうれしかった」、「多くの場所があっておどろいた」「小学校ではできないことができて、楽しかった」との声や、保護者の方からは、「好奇心を刺激され、様々なものに興味を抱いていた。家庭で発展させたい」「大学内を見学したり、どういう事を学ぶ場所かが体験できて良かった」「福教大のイメージがとても良くなった」など、たくさんのうれしい言葉をいただきました。



つくって楽しむ子ども科学実験



折り紙で立体をつくらう



ふうせん自動車・ホバークラフトを作って走らせよう!



鉱物の魅力を味わおう!

福教大 NEWS 3 ▶ 「平成27年度 第1回福岡教育大学 学生ボランティア活動報告会」を開催しました

福岡教育大学では、学校や地域支援ボランティア活動を、各学生の成長とともに、教員としての実践的指導力や職場適応力(社会人としての基礎力やストレスコントロール力)を育成するものとして積極的に奨励しており、本年度は、既に1000人を超える学生(平成27年7月31日時点)が参加しています。大学として、2名の教員(校長)経験者によるボランティアコーディネーターを配置し、ボランティア活動サポートシステムの整備、「学生ボランティア活動認定システム」の新たな実施等の支援を行っています。

平成27年11月6日(金)、「平成27年度第1回福岡教育大学学生ボランティア活動報告会」を開催し、220名の学生と大学役員、後援会及び同窓会事務局職員等、合わせて約240名が参加しました。

坂田紳一ボランティアコーディネーターから学生ボランティアの現状と展望について説明があった後、小・中学校での学校支援ボランティア、東日本大震災の被災地における学習支援ボランティア、スポーツ大会をととした地域支援ボランティア、ボランティアサークルで取り組んでいる自閉症の方への支援など、様々なボランティア活動経験者6名による実践報告を行いました。活動経験者からは、ボランティア活動をととして学校現場の教員や児童生徒と深く関わった経験、教員として必要な力や学修についての気づき、教員を目指す動機付けの機会となったこと等、意欲的な発表が行われました。その後、羽原哲男ボランティアコーディネーターの司会のもと、実践報告を受けてグループ協議を行いました。加えて最後に、本学のボランティア活動を積極的に推進している井上豊久教授、伊藤克治教授から講評と今後の展望が示されました。

参加した学生からは、「学校支援ボランティアは、教育現場への理解が深まるだけでなく、自分の資質能力の向上や、視野を広げるためになるものだと思った。」「教師になるという目標のため、学生の今だからこそできるボランティア活動に積極的に取り組みたいと思った。」「多くの子どもや地域の方とかわり、学んだことをとおした多様な視点からの報告を聞くことができ、ボランティア活動をする上での参考になった。」といった感想が寄せられ、ボランティアの重要性を再認識し、今後の活動に繋がる有意義な報告会となりました。

来年度からの「学生ボランティア活動認定システム」の本格実施を含め、学生の全員参加を目指して一層の学生ボランティア活動の充実に努めてまいります。



学校支援ボランティアの実践報告



会場の様子



井上教授(右)伊藤教授(左)による講評

福教大 NEWS 4 ▶ 第50回福教大祭を開催しました

福岡教育大学では、11月21日(土)～22日(日)の日程で大学祭を開催しました。

—福教大祭実行委員長からのコメント—

第50回福教大祭で実行委員長を務めさせていただきました、平川喬也です。福教大祭に参加された団体さんや学校関係者の皆さん、さらには近隣住民の方々の多大なるご協力のおかげで今年度も福教大祭を成功させることができました。皆様のご理解・ご協力ありがとうございました。

今年度の福教大祭は記念すべき第50回を迎え、芸能人企画ではミュージシャンのDAIGOさんを招致することができました。芸能人企画以外にも、テントや教室での食品・物品販売や、ステージ上で行われた様々な企画が福教大祭をより素晴らしいものにし、福教大祭を盛り上げることができました。たくさんの食品のおいしそう匂いやステージ上でのライブパフォーマンスの力強さ、団体さんや一般来場者の方々の楽しそうな笑顔など、学祭当日の様々な情景は、今でも鮮明に思い出すことができます。

福教大祭を行うにあたって、楽しいことも苦しいこともたくさんありました。しかし、学祭当日を迎え、団体さんや一般来場者の方が笑顔で楽しんでいる姿を見たときに、私は今までやってきて良かったと心から思うことができました。さらに、学祭が終わった後に、「おつかれさま!」「楽しかった!」などの言葉をかけていただいたときには、学祭が終わってしまったという寂しさと、学祭を成功させたという達成感でいっぱいになりました。この第50回福教大祭を通して、私たち学祭STAFFはたくさんの経験をさせていただき、一生忘れることのない思い出を作ることができました。団体さんや一般来場者の方にも忘れられない学祭になっていると嬉しく思います。

来年度の福教大祭は第51回を迎え、福教大祭の新たな一歩を踏み出します。私たちを含めた多くの歴代の学祭STAFFたちが創り上げてきた過去50回分の古き良き伝統を受け継ぎつつ、福教大祭に新たな旋風を巻き起こそうと考えております。さらにパワーアップする次回の第51回福教大祭にご期待ください!皆様のご来場をお待ちしております!

ひらかわ たかなり
第50回福教大祭 学祭実行委員会実行委員長 平川 喬也
(共生社会教育課程国際共生教育コース1年)



福教大 NEWS 5 ▶ 就職講演会・教職イベント 「教員採用試験を終えて」を開催しました

福岡教育大学では、福教大祭2日目の平成27年11月22日(日)に就職講演会・教職イベントを開催しました。

前半は、就職講演会として大竹副理事(キャリア開発担当)による「正規教員採用向上を目指して」と題した講演会を、後半は、教職イベントとして本年度教員採用試験の合格者による発表を行い、学生・保護者の方々、約200名の参加がありました。

終了後のアンケートでは「採用試験に向けての心構え、子供への接し方、キャリア支援センターを最大限に活用することなどが具体的に示されて大変役に立った。」「学生の立場からの家庭からの支援で望むことが参考になった。」などの感想が寄せられました。

保護者の方々と大学が情報共有し、意見交換し合う有意義な機会となりました。



就職講演会の様子



教職イベントの様子

JENESYS2015対日理解促進プログラムに 本学学生が参加しました

JENESYS2015は外務省が推進する国際交流事業で、日本とアセアン地域との間で青少年を招へい・派遣し、対日理解の促進を図るプログラムです。本プログラムは、グループ応募方式(学部生は5名1組or10名1組、大学院生は2～3名1組)で募集され、本学からは、初等教育教員養成課程社会科選修3年の井上明日香さん、尾之上夏帆さん、田中綾さん、松下歌歩さん、渡辺奈津実さんが5名1組で応募し、シンガポールへの派遣が決定しました。

1月12日から8日間派遣された学生は全国から総勢23名。大使館や日系企業等では日本とシンガポールの係わりについて学び、大学訪問では日本の魅力を発信(プレゼン)し、ディスカッション等とおおして交流を深めました。ホームステイ先ではシンガポール市民の生活を体験し、最後は、現地関係者へ帰国後のアクションプランを発表して、今後も積極的に日本を国際社会に発信していくことを確認しました。

参加した学生のレポートより

私はこれまで何度も東南アジアに行きたいと思っていましたが、なかなか一步を踏み出せずにいたところこのプロジェクトを見つけ、「対日交流事業～日本の魅力を世界に発信する」というミッションに魅かれてメンバーを募り、幸運にも参加することができました。このプロジェクトにおいて特に印象に残ったことが2つあります。

1つ目は「異文化理解」です。派遣国であるシンガポールは多民族国家であり、様々な人種の人々がいて、様々な言語が飛び交います。日本においては非現実的であるように思えますが、シンガポールの人々にとっては当たり前のことなのです。これはシンガポールという国が長年かけて作り上げた素晴らしい文化であると思います。政策において感心したのは、同じ住居にそれぞれの人種の割合をあらかじめ決めておくことです。このことにより必然的に他の文化に触れることができるのです。私は世界中がシンガポールのような国にならないものかと思いました。現代において世界的問題となっていることが「宗教」の問題です。シンガポールは勿論様々な宗教を信仰している人がいます。街中にモスクもあれば教会もあり、仏教のお寺、ヒンドゥー教の寺院もあります。私がホームステイさせていただいた家庭はイスラム教徒でした。ホームステイ先のお父さんに「宗教間での争いはないのか」と聞いたところ、互いに敬っているようで、特に衝突は無いようでした。一方、現代の世界情勢においてイスラム教に対する見方を改めてほしいと強く願っていました。特に日本はイスラム教に馴染みが薄く、メディアでの報道を鵜呑みにすると「イスラム教は怖い宗教」と思われがちです。しかし、それは違います。お父さんが懸命に訴えていたように、イスラム教徒の人は100人いたら少なくとも99人はとても親しみやすく、誠実で、優しいと思います。無知こそが何よりも怖いと思いました。この事実は今後私が教員になった時、子どもたちにしっかり伝えていきたいと思っています。

2つ目は「教育」です。シンガポールの大学生と交流する機会が何度もありましたが、学力の高さに驚きました。まず国の政策として、皆公用語の英語を含めた2か国語を話すことができます。現地に住んでいる日本人の方に「子どもに詰め込み教育をするのはどう思いますか」と尋ねたところ、「子どもだからこそなんでも覚えることができる。まずは詰め込んで知識を得て、活用するのはその先にあるのではないか。」との答えが返ってきました。私はとても納得しました。一方でシンガポールの教育の課題は「道徳心の育成」であるようでした。これらのことから日本の教育の変遷と類似していると感じました。私も教育者になる身として子どもたちをしっかり育てていきたいです。

他にも書ききれないほどの多くのことを学び、他大学の学生と共に活動することで刺激も得ました。このプロジェクトで私の価値観は大きく変わりました。今回で学んだことを将来しっかり活かしていきたいです。

初等教育教員養成課程 社会科選修 松下 歌歩

海外体験は多様な価値観に触れて自分を見つめ直すよい機会です。これから教員等を目指す上で、学生の間にはどんな経験をするのか、将来子供達にどんなことを伝えたいのか、そんなことを考えるきっかけになるのではないのでしょうか。

福岡教育大学は、様々なことに挑戦する意欲を持ち、学びや成長に前向きな学生のみなさんを全力で応援します。



マーライオン公園にて



NTU(南洋理工大学)でのプレゼンテーション



日本大使館にて今回の参加者と

福教大 NEWS 7 ▶ ワークショップ「歌舞伎の音とうごき」を開催しました

福岡教育大学では、2月15日(月)に日本文化理解・国際交流のための特別講座(ワークショップ)「歌舞伎の音とうごき」を開催しました。

講師は、歌舞伎を一般向けにも広く紹介されている歌舞伎付け打ち師の山崎徹さんと歌舞伎立方俳優の中村橋吾さんと、本学からは、留学生や日本人学生、教職員など、計40名が参加しました。

当日は教室に歌舞伎舞台ふうの花道を組み込んだセッティングが準備され、参加者は会場を広く使った歌舞伎特有の動きと音(付け打ち)の効果を体験しました。

このたびのワークショップは自国文化の再発見及び異文化理解の大変貴重な機会であり、日本人学生にとっては自らの文化を理解し発信するチャンス、また、留学生にとっては広く日本文化を体験するチャンスとなりました。

【参加者アンケートより抜粋】

- とても迫力があり魅了されました。日本にこんな芸能があることを誇りに感じた90分でした。
- It was an amazing performance !
- 日本独特の芸能だなと思ったと同時に、西洋のオペラとも共通することがたくさんあることにおどろきました。
- これから教師になるために、日本の芸能について深く学び、子どもたちにも伝えていきたいです。
- 「普段が大切」という話がありましたが、自分に置き換えてみてまさしくそうなのだと感じました。



福教大 NEWS 8 ▶ 本学附属福岡中学校教諭が文部科学大臣優秀教職員表彰を受賞しました

平成28年1月18日(月)、メルパルクホール(東京)において「平成27年度文部科学大臣優秀教職員表彰式」が開催され、本学附属福岡中学校の堀浩二教諭が表彰されました。

文部科学省では、学校教育における教育実践等に顕著な成果を上げた教員について、その功績を表彰するとともに広く周知し、併せて我が国の教員の意欲及び資質能力の向上に資することを目的として、平成18年度より、学校教育において顕著な実績を挙げている教員を表彰しています。

このたび堀教諭は、学習指導の実践分野において、特に顕著な成果を上げた教員として表彰されました。



平成27年度福岡教育大学学生表彰式を行いました

平成28年2月22日(月)、本学第一会議室において、平成27年度福岡教育大学学生表彰式を行いました。

本表彰は、研究、課外及び社会活動等において、特に顕著な成果や功績を取めた学生及び学生団体を表彰するもので、今年度は12名の学生と5つの学生団体が表彰の対象となりました。

表彰式では、本学後援会長、役職員及び指導教員・顧問教員が見守る中、対象となる学生及び学生団体の代表者に、表彰状と記念品が贈呈された後、寺尾学長から祝辞が述べられるとともに、坂田後援会長からお祝いの言葉をいただきました。また、学生代表の大学院教育学研究科2年の大和太希さんからは、「それぞれの活動での成果は、大学の環境及び教職員の皆様の後押しによるものです。今後、自らの能力を高められるように研鑽に努め、さらなる飛躍を期したいと思います。」との感謝の言葉と抱負が述べられました。



種別	所属名	氏名	大会	
			名称等	成績等
個人	教育科学専攻理科教育コース	ヤマト 大和 ダイキ 太希	日本物理教育学会九州支部研究会	優秀発表賞
個人	教育科学専攻技術教育コース	ナカニシ 中西 ミワ コ 実和子	日本産業技術教育学会第28回九州支部大会	九州支部大会 学生優秀発表賞
個人	教育科学専攻理科教育コース	オリタ 織田 カズキ 一輝	平成27年度日本理科教育学会九州支部大会	九州支部大会 発表論文賞

種別	所属名	氏名	大会	
			名称等	成績等
個人	生涯スポーツ芸術課程音楽コース	ユキ 幸 ショウゴ 省吾	(1)第25回日本クラシック音楽コンクール全国大会ピアノ部門	第3位
			(2)第21回宮日音楽コンクール ピアノ部門	優秀賞(第2位)
個人	芸術課程音楽コース	タカギ 高木 ひかり	第21回宮日音楽コンクール ピアノ部門	優秀賞(第2位)
個人	芸術課程音楽コース	マツバラ 松原 ナミ 奈美	第69回全日本学生音楽コンクール北九州大会 声楽部門	第1位
個人	球ちゃん(アルティメット)	アサザフ 赤澤 カナ 加奈	WFDF2015世界U-23アルティメット選手権大会	日本代表(優勝)
個人	剣道部	シノダ 信田 マリナ 茉莉奈	第48回全九州女子学生剣道選手権大会	優勝
個人	柔道部	タサカ 田坂 サエ 冴	第29回九州学生女子柔道体重別選手権大会	優勝
個人	陸上競技部	タカノ 高野 リツ 陸	(1)第59回全国教育系大学陸上競技大会(男子400m)	優勝
			(2)第43回九州学生陸上競技選手権大会(男子400m)	優勝
個人	陸上競技部	ハマノ 濱野 ミキ 未希	(1)第68回西日本学生陸上競技対校選手権大会(女子800m)	第2位
			(2)第85回九州学生陸上競技対校選手権大会(女子800m)	優勝
個人	陸上競技部	フジシゲ 藤重 タクト 拓人	第59回全国教育系大学陸上競技大会(男子1500m)	優勝
団体	剣道部女子	—	第30回西日本女子学生剣道大会	優勝
団体	柔道部男子	—	第57回全国国立大学柔道優勝大会	第3位
団体	柔道部女子	—	平成27年度全日本学生柔道優勝大会	第3位
団体	女子バスケットボール部	—	第22回全九州大学バスケットボールリーグ戦	優勝
団体	女子バレーボール部	—	第55回全国教育学芸大学女子バレーボール大会	優勝

福教大 NEWS 10 ▶ 「平成27年度福岡教育大学 優秀教育実習生賞」表彰式を行いました

福岡教育大学では、平成28年2月22日(月)に「平成27年度福岡教育大学優秀教育実習生賞」表彰式を挙げていただきました。

この賞は、「実習生としての教育的愛情、使命感の自覚、授業や学級運営等における教育方法の創意工夫、そして同僚と協同しながら切磋琢磨してきた数々の努力と工夫に敬意を払い、その功績を称える」ことを目的として、平成22年度から創設され、本年度は11名の学生が受賞いたしました。

表彰式では、寺尾学長から、受賞した学生一人ひとりに表彰状と記念品が贈呈された後、「質の高い教員養成という理念を掲げる本学にとって、皆さんの頑張りは、実に頼もしい限りであり、今回の表彰を機に、「教師になる」という思いを一層強く掲げ、自己自身の研鑽に励むとともに、友人や後輩たちにもよい刺激を与えていただきたい。」との挨拶がありました。

その後、学生の代表から、「この賞を受賞できたのは、附属学校の先生方、大学で指導していただいた先生、支えてくれた家族、なにより共に実習を乗り越えた仲間のおかげです。」と感謝の気持ちが述べられました。また、「教育実習を通して、私は授業づくりにおいて大切なこと、子どもたちとの接し方など多くのことを学ばせていただきました。また、子どもに寄り添った授業づくりの大変さを知ったと同時に子どもたちに教えることのおもしろさや楽しさ、責任を改めて感じることもできました。今回の教育実習を終えたことで、教師になりたいという思いがより強くなったとともに、教師を目指すうえで自分に何が 필요한のか、何をすべきなのかという道標を見つけることができましたと思います。」と力強い謝辞がありました。

表彰式終了後は、学長、理事をはじめご来賓の坂田福岡教育大学後援会会長、各附属学校から出席いただいた校長、大学指導教員とで、実習期間中の思い出話に花を咲かせながら、なごやかな雰囲気写真撮影を行いました。



平成27年度優秀教育実習生賞表彰式

福教大 NEWS 11 ▶ 附属福岡小・中学校特別支援学級教棟の 竣工式を行いました

附属福岡小・中学校では、平成28年3月3日(木)に特別支援学級教棟(通称「北校舎」)改修工事の竣工式を開催しました。

「北校舎」は、昭和46年に完成して以来、44年間にわたり特別支援学級の学舎として活用されました。その間、児童・生徒は「北校舎」で様々なことを学び、多くの思い出を作ってきましたが、老朽化により校舎内に危険な箇所が生じたり、児童・生徒の多様な学習活動に対応することができなくなっていました。このような状況の中、今年度、本工事が予算化され竣工に至りました。

当日は、卒業生、教員OB、大学教職員、後援会、保護者等、約80名の参加者をお迎えして、特別支援学級の中学生の進行により完成式典を小学校運動場で、小学生の進行により小学校の可動式教室で記念行事を行った後、校舎の内覧会を行いました。

児童・生徒からは、「新しい校舎で勉強するのが楽しみ」、「いろいろな思い出を作りたい」、「大切に使いたい」等、感謝の言葉が発表されました。



テープカットの様子



児童による発表



国語学研究

国語教育講座 准教授 荻野 千砂子



教員プロフィール
荻野 千砂子
(おぎの ちさこ)

九州大学大学院人文科学府博士課程を単位修得退学。平成18年に博士(文学)取得。2015年本学に赴任。専門は日本語学。琉球語と古典語と現代語の比較研究を行っています。

演習の目的

国語学研究は演習の科目で、初等の学生を三名の教員で受け持っています。演習で扱う資料は教員によって異なりますが、学ぶことは基本的に同じです。まず、データの信憑性を確認し、データから読み取れることを整理し、新しい論をじっくりと自分で構築します。論理的思考力は自分で苦勞をしないと身につけません。社会に出たとき、人の噂や憶測に惑わされることなく、データを見て何が正しいかを客観的に分析する力を育成することが目的の一つです。

日本語族の特徴

さて、私のクラスでは沖縄県石垣市の宮良方言の録音資料を用いています。学生は、宮良方言で語られる「桃太郎」を聞くと、とても驚きます。あまりに共通語と違うからです。でも、どちらも日本語族なので共通点があります。例えば、動詞や形容詞は活用します。だから、演習発表で活用表を作るテーマを設定する学生がいます。中学・高等学校の国語の授業で文法は暗記するものでしたが、本当は自分で活用表を作る方が面白いのです。

方言は異文化理解の第一歩

方言には音声的なバリエーションもあります。よく「方言は訛っている」と言いますが、そうではなく「地域ごとに母音や子音の体系が異なる」のです。異なることを受け入れることは異文化理解の第一歩です。フィールドワークに出かけると、日本の中でも地域ごとに多様な文化があることに気づきます。授業では、フィールドワークの方法についても学びます。フィールドワークを実際に体験して豊かな人間性を身につけてほしいと願っています。



$$A + B = C^2$$



代数学



数学教育講座 講師 岡崎 亮太



教員プロフィール
岡崎 亮太
(おかざき りょうた)

大阪大学大学院情報科学研究科博士課程情報基礎数学専攻修了(博士(理学))。専門は数学(組合せ論的可換代数)。単体的複体等の組合せ論的・幾何的対象と付随する可換代数の間の相互関係について研究を行っています。

代数学とは

代数学とは、加法や乗法といった演算をもつ体系の性質を調べることを主目的とする数学の分野の一つです。高校までの数学の内容でいえば、数、多項式、ベクトル等に相当します。そう聞くと「なにやら数式やベクトルの難しい計算を行うのだろう」と思われるかもしれませんが、そうではありません。色んな定理等の証明が中心となります。

現代数学の入り口へ

代数学の講義では、群論と環論の基礎を学びます。大雑把にいうと群論は演算が一つ定まった体系、環論は2つの演算が定まった体系の性質を調べる分野です。非常に抽象的ですが、それ故に適用範囲が広く、数学の色んな分野に登場し、最先端の数学においても活発に研究されています。

統一的な視点から眺める

高校までの数学では「数は数」、「多項式は多項式」といった具合に個々の概念に注目して議論が進められますが、代数学では様々な代数的な概念や現象について統一的な視点から議論を行います。例えるなら、高校までの数学では各都道府県単位で物事を考えているのに対し、代数学では都道府県を日本の一部と捉え、日本全体を眺めているという感覚です。このような視点をもつことで、それまでは意識していなかった各都道府県間(数や多項式など)の共通の性質や関係性が明確になり、より理解が深まるのです。代数学の講義では、この感覚を味わってもらおうべく、高校までの算数・数学との関連性を重視しながら講義を行っています。



技術教育講座 梅野 貴俊 研究室

「技術の力で教育をサポートする」

ジュニアアスリートを中心としたスポーツ選手の運動解析、効果的な運動能力向上のための運動指導およびトレーニング手法の構築、脳波や視線解析を用いた教育効果の検討などバイオメカニクスを用いた研究、ロボットやものづくりコンテストに用いる技術教育教材の開発など様々な研究を行っています。

技術の進歩によって、人を解析する様々な解析装置が開発されています。この装置により、人の体に関する新たな研究報告がいくつも報告されています。それでも人である私たち自身、その体のしくみについて完全には理解しておらず、科学的に解明されていない人の謎が沢山あります。人を対象とした研究は非常に困難を極めますが、やりがいのある面白い研究だと思います。現在、当研究室には学部生5名が在籍しており、本学保健体育講座、他大学や病院と連携し研究を行っています。特にジュニアアスリートを中心としたスポーツ選手の運動解析に力を入れており、文部科学省が定める新体力テストとは異なる運動能力テストを開発しました。これは年齢に左右されない、単に運動能力だけを測定するテストであり、小学生が中学生よりも高いスコアを出すことも多々あります。このテストを用いて運動能力の高いアスリートの体の使い方を解析して、運動指導に応用する予定です。

技術教育教材の研究では、本講座を卒業し現場で働く技術科教員からのニーズを把握し、現場で使える教材を共同で開発しております。工業高校や大学工学部で行われているブリッジコンテストの簡易版である2次元ブリッジコンテスト、パラシュート、発電プロペラや導風板を紙で作製し、その機能を評価する小学生・中学生向けのものづくりコンテストなど、主にコンテスト形式の教材を考案しております。コンテスト型にこだわる理由は、教員が参加でき、ともに楽しめるからです。このコンテスト教材を用い、様々な教育機関で出前講義を実施しまし

た。昨年度は附属福岡中学校でもものづくりコンテストを実施しております。

研究以外では、自身の趣味であるサーフィンやスノーボードの面白さを学生に伝えるため年に数回、学生と一緒にスポーツを楽しんでいます。しかし、自身のスポーツは競技であるという考えにより、スパルタ指導となる時があるようです。また、研究室対抗ボウリング大会も定期的に参加しており、学生とともに楽しく汗をながしております。



研究室での親睦旅行



集合写真

ソフトテニス部

私たちソフトテニス部は、現在男子14名、女子4名の計18名で活動しています。練習は週5回、男女ともに行っており、練習試合や公式試合では福岡教育大学を離れて遠征に行くこともあります。そのため、県内外の他大学とも交流があり、様々な繋がりをつくることができています。

毎年春と秋にリーグ戦という大きな大会が行われており、私たちは主にその大会に向け、日々練習に励んでいます。昨年は、男女ともに上位リーグに昇格することはできませんでしたが、他の大会では感じることでない緊張感や楽しさ、悔しさや感動を味わうことができました。そして、今年は昇格できるように、より一層練習に励んでいます。

また、夏には全国の教育大学が参加する「全国教育大学ソフトテニス大会」が行われます。試合をするだけでなく、同じ教育大学の方々と交流し、距離は遠くても同じ夢を持っている仲間と出会うことで、心身ともに有意義な時間を過ごすことができます。

経験者の方はもちろんのこと、初心者の方でも気軽に始められるスポーツですので、ぜひ一度テニスコートに足を運んでみてください。



中等教育教員養成課程美術専攻 2年 和田 紅葉

ギター・マンドリンクラブ

私たちギター・マンドリンクラブは、マンドリン、ギター、コントラバスから構成されるマンドリンオーケストラです。男子3名、女子17名の計20名で活動しています。マンドリンという楽器を初めて聞く方も多いと思いますが、とてもきれいな音で魅力的な楽器です。年に一度行う定期演奏会に向けて、週に3回楽しく練習に励んでいます。

練習では、主にパートごとに分かれて練習した後に合奏を行います。練習曲の中には、J-POPからディズニーソングなど様々な曲があるので、合奏はとても楽しいです。他にも「部内発表会」や「学年発表会」、小学校や福祉施設などへの「訪問演奏会」も積極的に行っています。演奏会だけでなく遠足、合宿、レクリエーションや旅行なども行い、楽しむことを忘れることなく、日々活動に取り組んでいます。

部員は初心者がほとんどです。今までは運動部に所属し、音楽に携わってこなかったという人もいますので、初心者でも楽しく活動することができます。音楽が好きの方、何か楽器を始めたい方、誰でも大歓迎です。私たちと一緒にマンドリンで演奏をしてみませんか?ぜひ一度、練習を覗いてみてください。



環境教育課程環境教育コース 2年 濱 詩織

研究 連携

学校、教育委員会等との連携

福岡教育大学では、学校、教育委員会及びその他の機関・団体との連携事業や共同研究を推進し、その成果を積極的に社会に還元します。

連載第13回

若年教員研修プログラムの開発と実践研究 — 地元教育委員会との連携による 学校教育現場における現代的 課題への取組 —

本プロジェクトは、平成26・27年度の教育総合研究所の「重点・融合領域研究部門」における研究プロジェクトとして取り組んでおり、宗像市・福津市と本学が研究経費を拠出し合って互恵的に研究を進めています。

本研究の概要

これまでに、平成24・25年度の同プロジェクトの支援を受け、特に若年教員に焦点化した教員研修プログラムを開発し、試行的に実践した結果、授業力や学級経営力などの向上に寄与する成果を得ることができました(第一期)。引き続き、本プロジェクト(第二期)では、第一期で得られた成果を基にして、継続的に研究モデル校を中心とした実践研究を行うとともに、新たに「外国語活動」「算数・数学科教育」に関連する研修プログラムを開発して、実践することを主な目的としています。

具体的には、

- 1) 小学校外国語活動における書き言葉の体験を促すタスク活動の実践研究
- 2) 算数科における活用力を育てる教材・教具の開発と単元構成・指導過程の検討
- 3) 実践的なICT活用のための教員研修
- 4) 研究モデル校を拠点とした特別支援教育の実践研究

以上の4つのサブテーマを、宗像市・福津市の教育委員会と学校教育現場(研究モデル校)が連携して研究を推進しています。

研究体制

本プロジェクトでは、先に示した4つのサブテーマにそれぞれ対応することができる本学教員と、学校教育現場の先生方をマッチングして、以下のように研究体制を整えています。また、研究モデル校を中心に実践研究を行い、その成果を広く還元するとともに、実際に得られた成果の還元がスムーズにできる大学、教育委員会、および学校間の連携体制が整うことを願っています。

研究全体統括

研究代表者	技術教育講座 教授 大内 毅
研究分担者	理科教育講座 教授 伊藤 克治

外国語活動

小学校外国語活動における書き言葉の体験を促すタスク活動の実践研究

研究分担者	英語教育講座 教授 森 千鶴 英語教育講座 教授 中島 亨 英語教育講座 准教授 吉武 正樹 宗像市(赤間小) 主幹教諭 西田 剛信 宗像市教育委員会 指導主事 守 浩一郎 宗像市教育委員会 連携コーディネーター 田中 雅子
研究モデル校	宗像市立赤間小学校

ICT教育

実践的なICT活用のための教員研修

研究分担者	理科教育講座 教授 古川 健一 宗像市(河東西小) 主幹教諭 川口 克典 宗像市(河東西小) 教諭 縄田 浩美 宗像市(玄海中) 教諭 廣瀬 賢吾 宗像市教育委員会 指導主事 高木 陽一郎 宗像市教育委員会 連携コーディネーター 田中 雅子
研究モデル校	宗像市立玄海中学校 宗像市立河東西小学校

算数・数学科教育

算数科における活用力を育てる教材・教具の開発と単元構成・指導過程の検討

研究分担者	教職実践講座 教授 森 保之 数学教育講座 准教授 岩田 耕司 数学教育講座 准教授 今井 一仁 福津市(福岡小) 主幹教諭 福田 晋 福津市(福岡小) 教諭 武 裕道 福津市教育委員会 指導主事兼企画係長 内藤 博愛
研究モデル校	福津市立福岡小学校

特別支援教育

研究モデル校を拠点とした特別支援教育の実践研究

研究分担者	教職実践講座 教授 納富 恵子 教職実践講座 教授 西山 久子 宗像市(自由ヶ丘小) 主幹教諭 杉山 修二 宗像市(中央中) 主幹教諭 佐々木 眞理子 福津市(津屋崎中) 主幹教諭 永松 亜希子 宗像市教育委員会 指導主事 守 浩一郎 福津市教育委員会 指導主事 吉住 美津子 宗像市教育委員会 連携コーディネーター 田中 雅子
研究モデル校	宗像市立中央中学校 宗像市立自由ヶ丘小学校 福津市立津屋崎中学校

※研究体制は平成27年度の体制で、研究モデル校は7校です。

全体会議の様子



外国語活動



算数・数学科教育



ICT教育



特別支援教育

年度当初に、担当者全員が集まる会議を開催し、本プロジェクトにおける経過報告や現状の課題を共有して、研究の方向性を議論します。最終的には、1年間の研究計画を立てます。毎年、宗像市役所の会議室で開催しています。

各サブテーマにおける実践研究の様子

外国語活動



教育大学の留学生5名がゲストとして授業に参加しています(赤間小学校)。



自己紹介のために英語で作った名刺を渡しました。



外国語活動の授業で習ったことを総動員して会話を試みました。

算数・数学科教育



6年生の算数の授業で、イメージ図を使って面積を求めています(福岡小学校)。



岩田先生による指導助言の様子です。



校内研修の様子です。

ICT教育



教育大学多目的ホールで開催されたICT活用のための研修会の様子です。



玄海小学校で開催されたICT活用のための研修会の様子です(古川先生)。



河東西小学校5年生の算数におけるタブレットと電子黒板を活用した授業づくり。

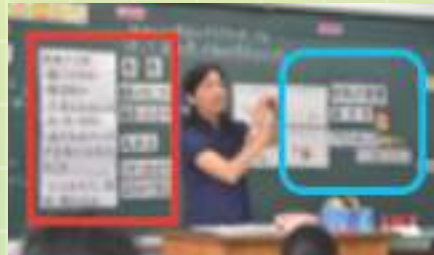
特別支援教育



校内研修の様子です(自由ヶ丘小学校)。西山先生による指導助言の様子です。



校内研修の様子です(中央中学校)。納富・西山先生による指導助言の様子です。



UDL(ユニバーサル・デザイン・ラーニング)を意識した図画工作科の授業に挑戦している様子です(自由ヶ丘小学校)。



算数の授業風景



学生時代に参加したカンボジアスタディツアー



学活(学級活動)の授業風景

教職は、夢のある仕事です。無限の可能性をもつ子供達の人生に関わることでできる素敵な仕事です。子供の姿が理想に近づき、共に喜び合う時が一番幸せな時間です。

素敵な繋がり

先生になって、たくさんの繋がりができました。一つ目は、子供達との繋がり。どんなときも本気で向き合い、一緒に笑ったり悲しんだりする中で、繋がりは深まっていきます。多忙な一日ですが、子供達の「分かった!」という表情や温かい言葉が原動力になっています。二つ目は、保護者との繋がり。私は、毎日学級通信を発行し、子供達の学校での様子や私の思いを発信しています。加えて、連絡を密にとる中で徐々に信頼関係を築くことができました。三つ目は、先輩の先生方との繋がり。仕事がうまくいかないとき、助けてくれるのは、周りの先生方です。相談すると、熱心に

話を聴き的確なアドバイスをくださいます。職員室での仕事の様子や教室を見るだけでも、多くの技を学ばせてもらえます。また、私は尊敬する先輩に出逢うことができ、「こんな先生になりたい」という先生としての新たな夢をもつことができました。

福岡教育大学の学生のみなさんへ

私は、学生時代にアルバイトをしてお金を貯めては、海外へ足を運んでいました。様々な国で人や自然などと触れ合う中で、視野が広がり、多様な考えを受け止められるようになりました。特に、人との出逢いは私の人生を変えてくれました。きっとみなさんも、好きなことに打ち込み、人と出逢い、経験値を上げている最中だと思います。今できることを精一杯すること。そして、人との出逢いを大切にすることは、人生の財産になります。それは、未来の子供達の選択肢を広げることもつながると思いますよ。



春日市立春日北小学校

みなみ りな
教諭 南 里奈さん

平成25年3月

初等教育教員養成課程
国語選修卒業



授業風景



清掃指導の様子



教材製作



教室に貼られた手作りの算数の教材



大学時代

教員生活がスタートし、一年が経過しようとしています。この一年、子どもたちの力を最大限に引き出すことができる授業づくりの難しさや自分自身の指導力不足に悩み、たくさん泣きました。しかし、真摯に相談に乗ってくださる先生方の存在や笑顔で受け入れてくれる子どもたちの存在、誰よりも子どもを愛し学校を信頼してくださる保護者の方の存在に支えられ、毎日楽しく過ごすことができました。

教師としてのやりがい

日々業務に追われ、悩むことも多くありますが、どんなに疲れていても子どもたちの笑顔を見ると疲れは吹き飛び、幸せな気持ちになります。子どもたちの笑顔が私に元気や勇気を与えてくれます。子どもたちの笑顔は最高の宝物です。

特別支援学校では、教科学習や日常生活の指導など子どもに教える場面もありますが、それ以上に子どもから教わることのほうが多いです。「こんな活動を仕組みれば意欲を高めることができるんだ」「こんな教材・教具を作成すれば分かりやすいんだ」など日々発見があります。作成した教材・教具が子どもにぴったり合ったとき、できなかったことが日々の積み重ねでできるように

なったとき、この上ない喜びを感じます。教師は子どもと一緒に学び成長できる、とてもやりがいのある仕事だと思います。

教員を志す教育大生へ

大学時代は療育、アルバイト、教育実習、教採の勉強、学校支援ボランティアなど様々な経験をしてきましたが、そのすべての経験が今の仕事に生きています。いろいろなことに挑戦し、いろいろな経験を積んで欲しいと思います。そして、友達と思いきり遊んでください。せっかくの大学生活、楽しまなきゃ損!みなさんが夢を叶え、教員として活躍されることを期待しています。



福岡県立古賀特別支援学校

そのはた ゆかい

教諭 園島 愉佳さん

平成27年3月

特別支援教育教員
養成課程卒業



大学のロゴマークの選定について



コンセプト

「エンブレム」を意識したデザインに、福岡・九州の教育の未来を照らす存在である希望の「光」、学問・教育を象徴する「ベン先」をプラス。カラーは誠実や知性といった意味合いを持つ紺色のみで表現。

平成25年12月に公表したミッションで、本学は義務教育段階の教員養成を行う広域拠点大学になることを宣言しました。この使命を実現するため、本学の英文表記を刷新するとともに、本学の存在感を統一的に社会に示しうるロゴマークを新たに作成することにしました。

この作成作業は昨年度から開始されましたが、選定した業者とデザイナーの方からは当初50を超える案が示され、学内の広報企画室及び役員懇談会で慎重な審議を繰り返しながら、このたび10案に絞ってWEB投票が行われました。

ロゴマークの作成に寄せてこれからの本学への期待や希望を表明していただきたいという願いがあり、WEB投票には、広く本学の学生諸君や教職員のみならず、卒業生や保護者の皆様、一般の皆様にもご参加いただきました。貴重なご意見を添えて投票して下さった方々に、この場を借りて感謝申し上げます。

投票の結果、群を抜いて上位を占めたのは、エンブレム(標章)形式の2つで、その中から選びました。理由は、男女共に幅広く支持を得ており、本学在生及び本学志願者からも多くの支持が得られたことがまず挙げられます。

個別のご意見を見ても、「かっこいい」「シンプルで引き締まっている」「知的な印象を受けた」「UTEFのマークが分かりやすく老若男女親しみやすい」「コンセプトに共感」「色は青系の清廉な感じがよい」「国際的で洗練されている感じ」「大学名の分かりやすさとユニフォームなどへの使いやすさ」などのご意見があり、ロゴの定着にとって重要な好評価を得られていると感じました。

エンブレムとしての外形の類似性から他のロゴに似ているのでやめてもらいたいとの指摘も一部にありましたが、コンセプト、文字、デザイン、色使いは全く別のものであるため問題はないと判断しました。この点は今後更に精査し、本学のロゴマークとしての独自性を確認してまいります。

英文表記については、これまでFUEも親しまれてきたところですが、他方であまり意識して使われていないという調査結果も出てきましたので、この機会に University of Teacher Education Fukuokaとし、「福岡にある教育大学」という意味を一層明確にする表記にしたところです。略称はUTEF、発音はユーティーイーエフでもユーテフでも良いのではないのでしょうか。

新しい英文表記とロゴマークが、学内外の皆様にも広く親しまれるようになることを祈念いたしますと共に、本学への信頼感とブランド力を高める努力を重ねたいと存じます。については、引き続き、本学へのご支援を宜しくお願い申し上げます。

学長 寺尾慎一

表紙モデルの福教大生☆

今号の表紙は、第25回日本クラシック音楽コンクール全国大会ピアノ部門第3位、第21回宮日音楽コンクールピアノ部門で優秀賞を受賞し、平成27年度の学生表彰に選ばれ、先日学長より表彰を受けた幸省吾さんにご登場いただきました。

将来音楽の教師を目指す幸さんは、今年4月に本学大学院に進学予定です。「大学院では今の自分に不足している教師になるための学びを中心に据えながら、音楽コンクールに積極的に出場するなどして実績を積むと共に人脈を広げ、子どもたちに生の音楽の良さや素晴らしさを伝えることができるような教師になりたいです。」と力強く語ってくれました。

ゆき しょうご
幸 省吾さん
生涯スポーツ芸術課程
音楽コース4年



同窓会 城山会

じょうやま

「第16回新年の会」盛会裡に終わる。

平成28年2月6日(土)隔年開催の新年の会が筑後地区担当(実行委員長:古賀孝敏)でホテルニュープラザ久留米で開催されました。福岡県教育庁理事をはじめ、大学当局、筑後地区教育長、先輩同窓会、校長会、大学後援会等のご来賓と各支部、支会の会員325名もの参会を得、会員相互の交流親睦がはかられた有意義な会でした。



同窓会城山会事務局
TEL・FAX: 0940-33-2211
e-mail: jouyamakai@able.ocn.ne.jp

後援会

平成28年度後援会総会のお知らせ

12月送付の「後援会だより72号」でお知らせしましたように、下記の日程で後援会総会を開催します。

日時 平成28年4月4日(月)13:30~

場所 福岡教育大学 教育総合研究所内 大1教室

※ 開始前の13時より大学から就職についての説明があります。

※「後援会だより」がお手元に届いていない方は、後援会事務局までご連絡ください。

変更がある場合は、事前にご連絡いたします。



後援会事務局
TEL・FAX: 0940-33-8070
e-mail: kouenkai@eos.ocn.ne.jp

健康科学センター

健康科学センターでは、医師、看護師、カウンセラーによる心身両面での相談を受け付けています。

その他、いろいろな企画をしていますので、ぜひお気軽にお越しください。

●お花を育てる会

開催日は掲示板やHPでお知らせします(2回/月)。

天候によって、編み物やしおりの制作も行っています。



●自律訓練法などのリラクゼーション法 随時行っています。



健康科学センターHP
<http://ww1.fukuoka-edu.ac.jp/~hokenctr/index.html>

学生広報スタッフ大募集

大学や学生情報のアイデア提供、広報誌の取材・写真撮影、ポスター・ホームページのモデル、大学ホームページのモニター、制作への参加、その他大学の広報活動全般に関わってみませんか?

詳細は担当者までお気軽にお問い合わせください。

●応募方法等

メールで、本文に以下の3項目を記載の上、応募してください。

1. 所属・学年
2. 氏名(ふりがな)
3. 連絡先(電話番号・e-mail)

受付後、こちらから連絡します。

なお、応募者多数の場合は、選考の上、結果を連絡します。

●応募先・問い合わせ先

経営政策課 梅田

TEL. 0940-35-1205

e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp



福岡教育大学の魅力を高校生・受験生をはじめ、地域の皆さまに知ってもらうために、広報・広告活動にボランティアとして参加・協力してくれる福教大生を大募集!
みなさんの応募をお待ちしています!



Joyama 通信 vol. 35



福岡教育大学
イメージキャラクター
フッキー

福岡教育大学広報誌第35号

2016年3月31日

編集発行: 国立大学法人 福岡教育大学
経営政策課

〒811-4192 宗像市赤間文教町1-1

TEL.0940-35-1205

FAX.0940-35-1259

e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp

ホームページ:

<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/>



携帯電話サイト



Twitter



YouTube

編集後記

■今号の特集1では、今年度の教員採用試験の状況と試験に向けた本学の取り組みについて紹介しました。

キャリア支援センターでは、教員採用試験のための特別講座や定期的な教職イベント等を開催し、教員を目指す学生のみなさんの夢の実現のための支援を行っています。

平成28年4月からは、新しい教育組織での教育・研究がスタートします。九州の教員養成の広域拠点大学としての使命を実現するために、今後も全力をあげて大学改革に取り組んでまいります。

(広報編集部)

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。